

エクステンジプログラム報告書

1. 被招へい者（被派遣者）全員の氏名・所属・身分とそれぞれの滞在期間・滞在先
氏名：木下 大輔
所属：NCU
身分：助理教授 (Assistant Professor)
滞在期間：2011/11/04 - 11/13
滞在先：CPS
2. 受け入れ担当者の氏名・所属・身分
氏名：木村 宏
所属：CPS
身分：特命准教授
3. 招へい（派遣）の目的（200字程度）
台湾国立中央大学 (NCU) の天文研究所との相互交流の推進。
今後の共同研究への可能性を探るだけではなく、組織間連携の強化へ向けた枠組み作りについての討論を行なうための招へい。
4. 成果報告（用紙が不足の場合は足してください）
NCU の天文研究所 (IANCU) は CPS との主要な連携研究機関であり、IANCU 天文との連携をいっそう深めることは、国際的なネットワークを構築しつつある CPS にとって有益である。その相互人材交流の一環として、IANCU の木下助理教授が CPS に滞在した。被招へい者は、小惑星表面の変性および小惑星の破壊についての議論、それから小惑星 3200 番 Phaethon の分光データの解析および論文執筆を中心に研究活動を行った。特に、小惑星の破壊については、中村昭子教授 (神戸大学) や CPS で開催された Grain Formation Workshop に参加中であった小林浩助教 (名古屋大学) に、衝突で生成される塵のサイズ分布、衝突のエネルギーと衝突後の最大破片の関係など、大変有益なアドバイスを得ることができた。これらの情報は、執筆中であった小惑星 3200 番 Phaethon の分光観測をまとめた論文の議論の部分に組み入れることができ、CPS 滞在期間中に論文草稿の完成に至った。こうした CPS での人的交流は、研究の推進において非常に有益であったが故に、滞在の受け入れ、および、滞在においてのサポートに被招へい者が非常に感謝する次第である。CPS をアジア地域のノードとして機能させるために、継続的な相互人材交流が重要な鍵となっていることが再確認された。